

彦春町茜

文想感書誌
論本體

第1回

読書感想文

『国体論』

第1回

著者：茜町春彦

概要：

集英社新書刊『国体論（白井聡著）』を読んだ感想です。

読み終わるのに、ちょっと時間がかかりそうなので、少しずつ読み進めながら分割して読書感想文を投稿してみたいと思います。投稿は全部で31回の予定です。たぶん面白いところは第4章、5章、6章、8章の辺りだと推測していますが、そこまでたどり着くことが出来るかどうか分かりませんが、とりあえず読了することを目標に第1章の1項から始めます。

読者対象：

戦前戦後の国家体制に関心のある人

ちょっと引用します。

(P16)・・・問題は改憲問題にとどまらない。安倍晋三を首班とする自民党政権およびその周辺は、「戦後レジームからの脱却」を唱え、戦後民主主義体制全般に対する憎悪にも似た感情を露にしてきた・・・

引用を終わります。

テレビや新聞とかで「戦後レジーム」と言う言葉をよく聞くようになりましたが、普通の人々はどのように理解しているのでしょうか。

「戦後レジーム」とは何のことであるかと云うと、「日本政府には権威も権力も無く、実質的に日本国民を支配しているのは在日米軍であるが、それを誤魔化すために国民統合の象徴と云う概念を急ぎょ考え出して、支配者としての米軍の存在を不可視化している国家体制」のことであると、僕は思っています。

そうならば、「戦後レジームからの脱却」と云うことは「米軍の実質的支配を終了させて、国民主権の共和制」に移行することであると思います。まあ、そう云う主張であれば、容認できますけどね。

しかし現政権が「戦後レジームからの脱却」と言っているのは、単に国民の目をそらす為に唱えているだけで、内実は「米軍の為に自衛隊を自衛軍に改変して、米軍と一緒に海外で行動ができるようにして、米国の兵器産業と日本の防衛企業に税金を湯水の如く注ぎ込める」ようにする、それだけのことだと思えます。

現政権のやろうとしている事を「戦後レジームからの脱却」と表現しないで、「米軍に依存する国家体制の強化」とマスメディアが表現すれば、多くの人がスッキリ理解できるようになると思うんですけどねえ・・・

(次回へ続く)

後書き

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 国体論：2018年4月22日第1刷発行 白井聡著 集英社新書

C G画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております。また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）
- はてなブログ （WEBLOGサービス）
- Facebook ページ （ソーシャルネットワークサービス）
- Pixiv （イラスト投稿サイト）
- カクヨム （小説投稿サイト）
- BOOTH （物販サイト）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2018年5月16日発行

読書感想文『国体論』第1回

<http://p.booklog.jp/book/122053>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122053>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト